

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4771400035		
法人名	有限会社ほしくぼ		
事業所名	グループホームほしくぼ		
所在地	今帰仁村字湧川1578-3		
自己評価作成日	平成28年8月16日	評価結果市町村受理日	平成28年10月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=4771400035-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F
訪問調査日	平成28年 9月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は今帰仁村の豊かな自然に囲まれた、のどかな環境にあります。医療面では村の診療所と連携し本人や家族が希望した場合ホームでの看取りの支援を実施している。雨の日以外は散歩し外のベンチにてもやしのひげ取り等作業し日光に当たり自然の風を感じ室内に留まらないように支援している。近隣の農家や家族、地域住民が野菜などの差し入れたり、また、地域の福祉祭りには入居者の作品を展示させてもらったり、地元の豊年祭の参加等地域とのかかわりを持ちながら住み慣れたところで人生を最後まで生き生きと過ごせるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

敷地内に同法人の2施設があり、事業所と連携し、利用者の交流を図っている。地域との関わりを大切にし、地域活動の参加や地域と一緒に防災訓練を実施している。食事面も差し入れや旬の地元食材を活かして、3食事業所で調理し利用者も参加することで季節感を感じる事ができる。日常的に敷地内の散歩や定期的に外出を計画し気分転換や五感刺激の場となっている。村診療所と連携して利用者の健康管理を行い、本人、家族の意向に沿うように終末期に向けた支援に取り組んでいる。研修を推進し、職員の希望する介護ケア以外の研修も参加費用の支援を行うとし、職員の専門的な知識、技術、個人のスキルアップに繋げている。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成 28年 10月 17日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「入居者の安心と満足」「地域の一員として」「愛といきがいのある職場」3つを理念に、ホームの目につく場所に掲げ職員全員に共有できるようにしている。またミーティング時に理念の振り返りを行い、理念に沿ったサービスを目指している。	左記にある3つの理念のそれぞれの方針を示し、職員はミーティングで話し合い、確認し具体的なケアについて統一を図っている。運営推進委員に新年度1回目には事業所理念について説明し共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の住民が野菜を届けてもらったり交流をもっている。また村の計画から参加しホームのブースを設け施設の紹介、入居者の作品を展示し地域との交流を図っている。	区長さんが運営推進委員で情報を共有し、事業所の行事等に地域の方が地域の行事に利用者と職員と一緒に参加し交流している。区の慰霊の日には草刈り、作品展ではテント張りやカレーの炊き出し等に職員が参加している。地域の学校の体験学習の場となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の老人会の交流時や地域の行事などに顔を出し入居者と触れ合ってもらい、また会議などを通しグループホームとはどういう所でどういったことをしているのか話し地域に向けて発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に関われる運営推進会議で日々の活動状況、入居者の情報を報告するとともに事故報告等質問やアドバイスをもらいケアの中に活かしている。	推進会議は年6回開催し、事業所の実情や事故報告等も行われ、事故(離設)では、「ハウ・レン・ソウ」の強化のアドバイスや看取りについて意見交換している。年間会議計画を作成し積極的に関わられるようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議メンバーに役場職員が2名おり会議を通しホームの情報を報告している。また村主催の地域ケア会議に参加し困難事例等のケアのあり方について学んでいる。	村担当者とは運営推進会議やケアマネジャー連絡会等、申請手続き時や空き状況報告時に窓口訪問で情報交換している。成年後見の活用や、利用者と疎遠になっていた家族の間を行政と連携して取り持った。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング時の勉強会等で全スタッフが身体拘束を正しく理解し拘束のない支援をしている。夜間は防犯のため施錠している。	職員は外部研修やミーティング等で拘束について具体的な事例で学び理解している。家族には契約時に説明し理解を得ているが、転倒や離設事故が起こると拘束容認の声があり、再度拘束しないケア方針、取り組みについて説明している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング時の勉強会や法令遵守を通し、虐待防止の徹底に努めている。		

沖縄県(グループホーム ほしくぼ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会の職員による権利擁護に関する説明を聞き制度の理解と活用を学ぶと共に実際に入居者が制度を利用しているため、理解しやすい環境といえる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約前に重要事項説明書を提示説明し疑問がないか尋ね理解を得た上で利用契約書をもっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にホームでの生活を伝え意見や要望を聞くように努めている。ホームに意見箱を設置している、またホームに苦情を伝えるための第三者の苦情窓口があることを契約時に説明している。	家族からは運営推進会議や面会時等で意見を聞いている。ケアの意見や要望が主で推進会議の中で「高校生のインターシップとは」「入院した時、退所になる期間は」等には説明している。利用者からは日々の会話の中や介護相談員を受け入れ意見等を聞く機会としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時やその他意見や提案がある場合は随時スタッフの話し合いを設け意見や提案を聞き反映させている。	毎月のミーティングや申し送り等、面談で職員の意見を聞く機会としている。利用者の状況に合わせて早勤の調整や業務改善(月、水、金から毎日モップ等)を行っている。職員の研修(介護以外でも)を推進、参加費用も支援し、研修後は報告、発表を行う事としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間の要望は個々により違うため、なるべく要望に沿えるようにしている。また、それぞれの得意分野が活かせるように役割をもたせている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡会主催の研修等、またミーティング時に認知症や権利擁護等の事例をあげ職員に考えさせる機会をもうけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣するグループホームとの交流は毎日のようにある。また本部町のグループホームの職員を招き接遇の勉強会を行ったり入居者を含めた交流会も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が不安な顔をしている時、声掛けし思いや、何をしたいのか等話を聞いてあげるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人のこれまでの生活歴等を家族と話し合いこれからどのように暮らしていきたいか支援できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の状況を把握し、これから何が必要か見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1日の生活で食事の仕込みをしたり、洗濯物を片づけたり、季節にあった行事等を行い、関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活で、気づいた事や、出来事面会時などで伝えている。イベントや行事等参加してもらい、良い関係作りが出来るように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や家族に電話をかけたり、ドライブ等で本人の行きたい場所へ出かけたり、村や字の行事などに参加できるように支援している。	地域社会との関係性は家族や本人、アセスメント等で把握に努めている。地域の行事、敬老会や豊年祭に出かけたり、老人会の仲間が訪問、ギターやハーモニカでミニコンサートを行う等交流している。教会の仲間と集会に出かける方、家族と定期的に外出する方等継続できるよう働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士等、席の調整をしたり、職員が間に入り支援している。		

沖縄県(グループホーム ほしくぼ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所し他の施設に移った方に皆で会いに行ったりし関係が途切れないように支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との普段の会話や行動などのコミュニケーションを通じ一人ひとりの思いをくみ取れるように努めている。意思疎通が困難な方にはその方の表情や今までの生活史、習慣、家族の聞き取りなどで思いや意向を把握できるように努めている。	本人の思いや意向は直に聞いたり、日々の生活の中で把握に努めている。年2回本人の暮らし(施設サービス計画書(3))を検討し好みや希望、言葉等を記して共有している。「石油基地を見たい」、利用者の意向で担当職員と一緒に出かけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に本人及び家族より聞き取り、入所前に関わっていたケアマネジャー等がいたら情報を共有し、これまでの生活なじみの関係が継続できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの過ごし方について本人の希望や今までの生活習慣を伺い、又「出来る事」を見極め暮らしの現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思い家族の意向などを伺いよりよく本人らしく暮らすことができるように計画の作成に努め、担当職員とケアマネジャーでアセスメント・モニタリングを実施し現状に即した介護計画の作成に努めている。	担当者会議に本人、家族、担当職員が参加し検討している。介護計画は更新時に見直し、アセスメント、モニタリングも実施している。随時の見直しも行われている。一人ひとり細やかなサービス内容であるがサービス実施状況の記録が行動観察の記録となっている。	計画はニーズを達成する為に目標、サービス内容が作成されています。サービス内容に連動した記録の工夫に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1人ひとり個別の記録を実施し、本人の言動ADLの状態などを記録し、職員間で情報を共有し、統一したケアの実践また記録を通して介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	共用型通所も実施しており、通所が困難になった場合は入所へ変更し対応している。その時の本人、家族の希望や状況に合わせ、必要な支援が受けられるように努めている。		

沖縄県(グループホーム ほしくぼ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の老人会との交流、ボランティアや慰問地域の大学の実習の受け入れを実施している。地域の昔ながらの人たちとの交流を通し地域の一員としての暮らしを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地元の診療所から月1回訪問診療を受けている。地元であるため、もともと受診していた方が殆どで顔見知りの関係である。開設時からの関係で必要時電話などで相談でき時間外でも応診に来てくれ適切な医療が受けられるように支援している。	全員が、馴染みの診療所を受診し、文書や電話などで密に情報交換している。職員も申し送り等で情報を共有している。状態に変化があれば、時間外でも往診が可能で、診療所との連携も良好である。眼科や歯科の受診に家族が困難な場合は、職員が対応するよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わり、観察の中で、バイタルサインの異変や体調の変化があれば、ホーム内の看護師に伝えて、相談、連絡し速やかに対応できるように努めている。また看護師からの情報も記録などを通して共有してもらえるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員、関係者、家族等とこまめに連絡を取り合い、早期に退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に説明、重度化した場合にどうしたか本人、家族に意向を確認している。状態に変化がある場合は家族と連絡を取り合いその時々家族の思いに対応している。家族が希望すれば、ホームで終末期ケア看取りを実施している。	重度化した場合における事業所指針(看取りケア)を、入所時に、本人、家族に説明し意向が確認された方の同意書が作成されている。6月に職員の不安等の対応として看取りについての研修も行われ、同月に診療所医師と家族、職員との連携により、終末期(看取り)ケアを実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署で開催されている、普通救命講習を職員は受講している。また救急処置を忘れないように消防署より人体模型やADEを借りホームで訓練し急変時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自動火災通報装置、スプリンクラーを設置している年に2回消防の立ち合いのもと夜間想定消防訓練を実施している。年に2回のうち1回は実際に夜間に実施し災害対策に努めている。また、区長さんや近隣の方も火災通報装置に登録してもらい協力していただく体制を整えている。	消防署協力の下、年2回の消防訓練を実施し、地域住民も参加している。煙探知機や、通報装置、スプリンクラーが設置され、敷地内にある三事業所との連携もある。非常用食料として、事業所外に備蓄され災害対策に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ時の声掛けで「ちょっとそこまで行きましょう」や耳元でささやいたり、手招きしたりし誘導を行う。トイレ使用時はカーテンやドアを閉めたりしプライバシーの保護に努める。	尊厳あるケアについて、勉強会を実施し、利用者の誇りを傷つけないよう、さりげないケアを心掛け、「ゆったり」、「ゆっくり」と、自己決定しやすい言葉かけをするように努め、講師を招いての接遇研修を行っている。入浴時のドア、カーテンと二重にしてプライバシー確保している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事やおやつ時本人の食べたい物、飲みたい物の希望を聞いたりし、できるだけ提供できるようにしている。ミニドライブ時に行きたい所を聞いたりし自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴日本人が入りたくないと言われた時は次の日に入りましょう等希望に添えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時や更衣時時には本人に服を選んでいただく、また外出時には女性は化粧、男性は髭剃りをしその人らしい身だしなみができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえや切ってもらい、どう調理したらおいしく食べれるかなど会話をしている。ほしくぼ菜園で育てた野菜を収穫し調理して皆でいただき育てる楽しみ収穫する嬉しさを皆で共有できるように支援している。	三食事業所で調理し、献立、下ごしらえ、食器準備等、おやつ作りに利用者は参加している。パパイヤ炒りちやーや、島米、地域からの差し入れで、地元の食材を活かした料理を、職員と共に会話をしながら楽しく食事ができるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を記録し必要な食事量が取れているか確認を行う。月1回の体重測定で増減を把握している。朝食前にコップ1杯の水分補給 テーブルには水差しを置きいつでも飲めるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施し声掛け見守りの支援を行っている。入れ歯の方は週2-3回ポリドントにつけ、また汚れに応じて対応している。		

沖縄県(グループホーム ほしくぼ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間毎やその方にあった時間帯、排泄パターンを排泄チェックを利用し把握するようにしている。	排泄チェック表を活用し、一人ひとりのパターンを把握、失敗した方に対しては、周囲に気付かれないように声かけ、羞恥心の配慮や清潔保持に努めている。排泄ケアの勉強会を実施し、ケアの統一を図っている。オムツの勉強会では、オムツ体験をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を食事に多く取り入れ、ヨーグルトや毎回朝のオヤツにはゼーリを提供している。朝の散歩、レク体操などで体を動かし便秘にならないように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本週3回であるが希望があれば支援している。冬場は湯船も用意し入浴剤を使用し入浴を楽しみにできるように努めている。	入浴は個浴で、希望があれば、仲の良い方との入浴も可能である。冬場は、入浴剤を使用して湯船につかって温まるなど、入浴を楽しむことができるよう支援している。入浴を拒む利用者に対しては、対応する職員を替えたり、時間を変更するなど、意向に沿った入浴支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	散歩や体操など活動を行っている。また昼夜逆転にならないように日光浴を行い夜間の安眠につなげるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は看護師が実施し薬の変更等あれば申し送りし職員へ観察するように伝えられている。薬は介護職員が投与体調の変化あれば管理者や看護師へ報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に応じてミニドライブ、散歩、歌、談笑、コーヒータイム、新聞、小説を読むなど一人ひとりの楽しみを支援できるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	朝はほしくぼ菜園の観察、季節の花を見ながらホームの周囲を入居者、職員で散歩している。ミニドライブや塩工場の見学、ツツジ見学校見学、外食など行事を計画し、普段行けない場所への支援をしている。	日常的に、敷地内を散歩、週に一度はドライブや外食など外出支援に努めている。物品購入の希望がある方に対しては、名護まで出かけた、家族対応で毎週一回のカラオケや、教会にでかけている。一人一人の希望に沿った外出支援に努めている。	

沖縄県(グループホーム ほしくぼ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望で買いたい物がある場合は家族に連絡、相談し買い物ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により電話は自由に使用できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた野菜、果物、花などを飾り居心地よく過ごせるように工夫している。 ホールと台所が同じ空間にあるため、調理の音や匂いなどが感じられるようにしている。 トイレ等使用後はEMや木酢を散布し、臭いが残らないように留意している。	共用空間のホールのテーブル配置や座る場所は、利用者の状況等で検討して決めている。壁には利用者と協働の作品が飾られている。調理の音や美味しい匂い、窓から見える草花を眺めたりする事で五感刺激となっている。居心地の良い空間づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にイスやソファを設置いつでも自由に過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は使い慣れた寝具や時計家族の写真などを飾る 自分の信仰する宗教関係の物を飾り本人が安心して過ごせるようにしている。	使い慣れた家具や、ボックス、テレビやラジオも持ち込まれ、居室には、友達や家族の写真が飾られている。持ち込みの少ない方に対しては、事業所が提供するなど、居心地よく過ごせるよう努めている。西日対応にレースのカーテンを付け、自室で、読書を楽しまれる方に対しても、居心地よく過ごせるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内、トイレなどは手すりを取り付け安全に配慮している。 各部屋や共有場所には表札などわかりやすいようにしている。		